

2023 年度 履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」

募集要項

1. 目的

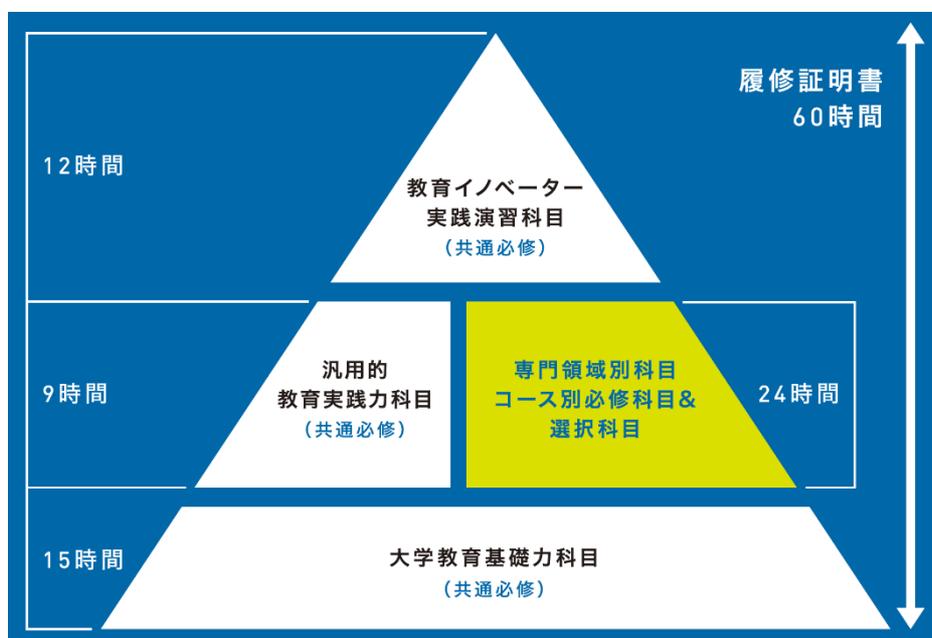
産学の連携により、学生がインターンシップで実社会を経験しながら、社会と結合した大学での学びに注力することが卒業後の活躍につながる社会、リカレント教育など社会人となっても学び続け、チャレンジし続ける時代がようやく到来するか、重大な岐路を迎えています。このような中で教育・雇用一体改革を軌道に乗せることに貢献すべく、学びと社会をつなぐことにより、学生の大学教育への動機付けを高めるとともに、社会人をリカレント教育へ惹き付けることを目指します。

本プログラムでは、産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現と、未来を拓く人材の各界への輩出のため、その中心的役割を担う実務家教員を育成することを目的としています。

2. プログラム概要：履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」

履修証明プログラムとは、社会人等を対象に大学の教育・研究資源を活かし、一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムで、プログラム修了者には、学校教育法 105 条に基づき履修証明書（Certificate）が交付されます*1・2。

「産学連携教育イノベーター育成プログラム」は、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に採択された「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」の取組の一環です。同取組では、実務家教員を育成する研修プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」（以下、プログラム）を提供します。



プログラムは 4 つの科目で構成されています。その一つである「専門領域別科目」は、次のコースよりいずれかを選択してください*3。

東北大学「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」は、アクティブ・ラーニングによるリベラルアーツ・セミナーや PBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）を含む教育実践、大学教員準備研修・新任教員研修や大学のリーダー育成のための履修証明プログラム（BP）など、大学教員育成に関する総合的な教育関係共同利用拠点として、海外大学との国際連携を活用して最先端のプログラムを日本に適合するよう内製化する形で開発・実施してきた知見の蓄積を活かし、産学連携によるリベラルアーツ教育を担う実務家教員の育成を目指します。

熊本大学「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」は、企業内教育訓練を含む教育の効果・効率・魅力を高めるインストラクショナルデザイン（ID）の日本におけるメッカとも言える存在として、米国等における先進的取組と連携しつつ、日本初の e ラーニング専門家養成大学院「教授システム学専攻」を設置・運営してきたオンライン実務家教育の専門性に基づき、学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を産学に普及できる実務家教員の育成を目指します。

大阪公立大学「アントレプレナーシップ教育力育成コース」は、イノベーション創出型研究者養成カリキュラムとして、多数の企業の協力を得て大学院の正式科目として設置した産学連携科目・インターンシップにおいて、毎年約 500 人もの受講者を輩出してきた実績を活かし、アントレプレナーシップ教育を担う実務家教員を育成します。

立教大学「リーダーシップ開発力育成コース」は、全国にその名を知られる「ビジネス・リーダーシップ・プログラム（BLP）」等の成果に基づき、アクティブ・ラーニングを通じて身に付けるリーダーシップ教育を、広く日本の高等教育において展開していく実務家教員を育成します。

- *1：履修証明制度は、教育機関等における学習成果を職業キャリア形成に活かす観点から、現在政府全体で検討・推進している「ジョブ・カード制度」においても、「職業能力証明書（ジョブ・カード・コア）」として位置付けられています。履修証明プログラムを各種資格の取得と結び付けるなど、目的・内容に応じて職能団体や地方公共団体、企業等と連携した取組も期待されています。
- *2：修了した際には、「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」「リーダーシップ開発力育成コース」の 2 コースは東北大学長名にて、「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」は熊本大学半導体・デジタル研究教育機構長名にて、「アントレプレナーシップ教育力育成コース」は大阪公立大学長名にて履修証明書が発行されます。（一部組織名称に変更が生じる場合があります。）
- *3：応募時には、第一受講希望コース、第二受講希望コースを選択することが可能です。第一受講希望コースが定員を上回る応募数の場合で、第二受講希望コースの受講者数に余裕がある場合、評価結果によって第二受講希望コースでの受講が可能となる場合があります。いずれも、定員人数での可否判定がなされます。第二受講希望コースの選択は必須ではありません（第二受講希望コース「なし」の選択も可能です）。

3. プログラムの達成目標

本プログラムが育成する実務家教員「産学連携教育イノベーター」の人材像に必要な到達目標として、次の 3 つの学習成果の獲得を掲げています。これらの到達目標については、目標ごとに到達度を示すポートフォリオ評価を添えることにより、プログラム全体の学習成果を明示します。

- ① 大学教員として教育を担うための**基礎的知識・技能・態度を身につける**
- ② 各コースに設定する**専門領域（汎用的な専門性）における教育実践力を身につける**
- ③ 学びと社会を繋ぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する**「教育イノベーター」としての変革力を身につける**

4. 応募資格

下記、①②の両方を満たす者。

- ① 大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者
- ② 原則として専門的技術的又は管理的な職務において5年以上の実務経験を有する者

5. 定員 100名（4コース合計数）

6. 費用

① 入学金：なし

② 受講料：300,000円

審査結果通知書と共に振込依頼書もしくは振込先をお送りします。指定日（2023年6月中旬予定）までに振込を完了させてください。支払われた受講料は、返金いたしません。プログラムを途中で辞退された場合でも同様です。

③ その他：集合研修等（演習や模擬授業等）への参加にかかる旅費・宿泊費等は自己負担とします。

7. 厚生労働省「教育訓練給付金」

本プログラム全4コースは、厚生労働省「教育訓練給付金（特定一般教育訓練）」認定講座です。一定の条件を満たす方が受講・修了した場合、受講料の40%（120,000円）をハローワークから支給します。この場合、最終的な自己負担額は180,000円となります。

※受給希望者は、別紙「**【受講希望者向け】教育訓練給付制度（特定一般教育訓練）についてのご案内**」を熟読し、各自ハローワークにて手続きしてください。

※ハローワークにおける、本プログラムの受講開始前に必要な手続きの締切は、2023年6月25日（受講開始日1か月前まで）です。合格確定前に手続きを進めておくことが可能ですので、早めの手続きをお勧めします。

8. 応募方法

① 応募期間：~~一次募集 2023年3月1日（水）～31日（金）~~
二次募集 2023年4月3日（月）～13日（木）

② 応募書類：文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」産学連携教育イノベーター育成プログラム ウェブサイト (<https://jitsumuka.jp/innovator/>) にて応募書類をダウンロードし、必要事項を記載の上、提出すること。

申請フォーム（オンライン）

必要事項をウェブフォームに直接入力してください。本人確認のため、写真の提出は必須です。

※ウェブサイトのセキュリティ上、フォームのアクセス時間制限（60分）があります。そのため、「**応募フォーム入力ガイド**」を活用して事前に入力内容を作成し、フォームに必要事項を転記すると便利です。

職歴書（様式あり）

様式をダウンロードし、MS Word もしくは PDF にて応募フォームにアップロードしてください。

勤務先・部署・役職・担当業務内容などを記載してください。現在の職務も含め、応募資格②「原則として専門的技術的又は管理的な職務において5年以上の実務経験を有する」がわかるよう記入してください。

志望理由書（様式あり：A4 × 3 ページ以内）

様式をダウンロードし、MS Word もしくは PDF にて応募フォームにアップロードしてください。

以下の(1)～(4)の項目を見出しとして設定し、記述してください。

- (1) 仕事と学びに対する関心・経験
- (2) 本プログラムの受講動機と意欲
- (3) 現代の大学教育への関心・問題意識
- (4) プログラム修了後のキャリアに関する抱負

承諾書（様式・内容の規定なし）

※企業などの所属先より派遣される方のみ提出

様式をダウンロードし、MS Word もしくは PDF にて応募フォームにアップロードしてください。

所属先の上の了承のもと、当プログラムを受講していることの確認書類として、所属部署の長等の承諾書が必要です。

- ③ 申請先：産学連携教育イノベーター育成プログラム ウェブサイトより申請すること。

エントリー（受講申込） URL:<https://jitsumuka.jp/innovator/>

9. 選考方法・日程

選考基準に基づき、選考を行う。

10. 2023 年度スケジュール*4

受講開始日	2023 年 7 月 25 日（火）
オリエンテーション（同期：対面@東京）	2023 年 8 月 6 日（日）
大学教育基礎力科目（非同期：オンライン）	2023 年 8 月～10 月上旬
汎用的教育実践力科目（同期：オンライン）	2023 年 10 月
専門領域別科目（同期：対面含む。日程表参照）	2023 年 11 月～12 月
教育イノベーター実践演習科目（同期：オンライン）	2024 年 1 月
修了認定	2024 年 2 月～3 月

*4：詳細は、別紙「産学連携教育イノベーター育成プログラム 科目概要」及び「産学連携教育イノベーター育成プログラム 日程表」を参照してください。また、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、日程や実施方法等の変更を行う可能性があります。

11. 修了要件

(ア) 開講期間内に本研修プログラムの 60 時間の課程を履修し、全科目に合格すること。

(イ) 履修大学において、教授会に相当する機関での認定を受けること。

※①②の修了要件を全て満たした場合に、学校教育法第 105 条に基づき履修証明書が授与されます。

【問い合わせ先】

産学連携教育イノベーター育成プログラム事務局

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター内
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41 Tel : 022-795-4472・4473
Email : innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

2023 年度 履修証明プログラム
産学連携教育イノベーター育成プログラム 科目概要

① 大学教育基礎力科目（計 15 時間：必修）※非同同期型オンライン				
<p>【目的】 大学で授業を担当するのに必須となる基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。</p> <p>【学習目標】 大学教育の動向や大学教員の役割・責務・倫理について正確な認識を持つとともに、インストラクショナルデザインやカリキュラムデザイン等の観点から、教育目標（期待される学習成果）の設定、学習評価、教育内容、教育方法、教材作成等に関する基礎的な知識・スキルを修得し、それらの応用により、実務経験の体系化・構造化とその学問的知識との関連付けを行うことを目指します。</p> <p>【授業方法】 各学習項目に関する Web 上の動画を視聴の上、必読文献を読み（オンライン学習：1.5 時間）、各項目について、Moodle 上で小テストに解答した上で、Moodle 掲示板上で講義内容に関する疑問・考察内容等を投稿するとともに、他受講生の投稿を読み、コメントを行う（Web コメント：0.5 時間）。最後に、本科目で学んだことに関する「大学教育基礎力レポート」の作成に取り組みます（レポート：3.0 時間）。</p> <p>【履修方法】 1) 学習項目 1~4 は必修です。2) 学習項目 5~11 より少なくとも 2 つ選択し学習します。</p> <p>【成績評価方法】 受講した学習項目において、小テストで 6 割以上正解すること、Moodle 掲示板へ投稿すること、並びに、他者の投稿にコメントすることを、大学教育基礎力レポートの提出前に満たさなければならない前提条件とします。大学教育基礎力レポートの評価は、100 点満点で、チェックリストによって評価します。同レポートの評価が 60 点以上であれば、本科目は合格とします。</p>				
学習項目	講師	時間	概要	
1	大学教育制度論 大森 不二雄 (東北大学 教授) 杉本 和弘 (東北大学 教授)	2.0 必修	大学の歴史的発展プロセスを振り返り、現代の高等教育を特徴づける 3 つの変化について学びます。その上で、日本で進行する大学教育改革の特徴を考察し、その中で教員が担うべき主体的役割について考えます。	
2	インストラクショナルデザイン 鈴木 克明 (武蔵野大学 教授)	2.0 必修	教育や研修の効果・効率・魅力を高めるための道具である「インストラクショナルデザイン (ID)」の基礎理論や具体的手法について学びます。	
3	授業設計論 平岡 斉士 (放送大学 准教授) 合田 美子 (熊本大学 准教授)	2.0 必修	学習目標、評価方法、教授方法を整合的にデザインする授業設計の方法を学び、実際に授業内外の学習をいかに設計して学習者に働きかけるかについて考えます。	
4	学習評価論 松下 佳代 (京都大学 教授)	2.0 必修	「学習評価」の枠組み・方法を概観した上で、特に学習成果の多様な評価方法について具体例を通して学びます。また、学生を評価の主体として育てていく必要性について考えます。	
5	学生・学習支援論 岡田 有司 (東京都立大学 准教授) 佐藤 智子 (東北大学 准教授)	2.0 選択 必修	大学生の抱える心理的・発達的問題を理解するとともに、学生支援や「合理的配慮」に基づく障害学生支援について学びます。さらに、学習観が転換しつつある現代に求められる効果的な学習支援のあり方を考えます。	
6	カリキュラムマネジメント 杉谷 祐美子 (青山学院大学 教授)	2.0 選択 必修	大学におけるカリキュラムの歴史的変遷や現状を踏まえ、教育目的・教育目標を実現するための「カリキュラムマネジメント」の考え方や活用方法について学びます。	
7	大学における倫理 山内 保典 (東北大学 准教授)	2.0 選択 必修	知の生産・活用に携わるプロフェッショナルとして、研究上・学習上のアカデミック・インテグリティ (学術的誠実性) を身につけること、大学におけるハラスメントを防止することの大切さについて学びます。	
8	教育改善論 高橋 哲也 (大阪公立大学 副学長) 緒方 広明 (京都大学 教授)	2.0 選択 必修	大学に関するあらゆる情報を収集・分析・活用する「インスティテューショナル・リサーチ (IR)」と、学習者の学習活動に関するビッグデータを収集・分析して教育改善等につなげる「ラーニング・アナリティクス (LA)」について学び、組織的な教育改善のあり方について考えます。	
9	オンライン授業実践論 根岸 千悠 (大阪大学 特任助教) 浦田 悠 (大阪大学 特任講師) 佐藤 浩章 (大阪大学 准教授) 村上 正行 (大阪大学 教授)	2.0 選択 必修	オンライン授業は、対面授業とどう違うのでしょうか。オンライン授業や e ラーニングに役立つツール・手法を用いた実践事例を紹介しつつ、オンライン授業の実践時に配慮すべき 10 のポイントについて学びます。	

10	ICT 等先端技術活用教育論	戸田 真志 (熊本大学 教授) 松葉 龍一 (東京工科大学 教授) 喜多 敏博 (熊本大学 教授) 甲斐 晶子 (青山学院大学 助教)	2.0 選択 必修	ICT 等の先端技術を教育実践でどのように活用するのかについて、実際に教育現場において SNS アプリやスマートスピーカーを用いた実践事例を紹介しながら学んでいきます。
11	実務家教員論	松井 利之 (大阪公立大学 教授) 広瀬 正 (大阪公立大学 特任教授)	2.0 選択 必修	実務家教員が必要となっている政策的・社会的要因を背景に、実務家教員の役割やその登用メリットについて学びます。さらに、先達教員の経験から、実務家教員に求められる心がけや姿勢について考えます。
大学教育基礎力レポート			3.0 必修	受講した学習項目を通して学んだことを振り返り、考察するレポートを作成・提出します。

② 汎用的教育実践力科目 (9 時間 : 必修) ※同期型オンライン

【目的】 大学で授業を担当し、研究指導を行うために必要な実践的な知識・スキルを修得することを目的とします。
【学習目標】 研究指導、シラバス作成、インストラクショナルデザインについて、同期型オンライン・ワークショップを通して、実際の教育現場で活用・応用できるようになることを目指します。
【授業方法】 受講生は、事前学習 (各 15~40 分)、各学習項目に関するワークショップに参加し (2.0~3.0 時間)、ワークを通して 1~3 の学習項目ごとに成果物 (授業計画やシラバス等) を完成させます (事後学習 0~30 分)。
【成績評価方法】 各学習項目 (各演習) 受講後の成果物について、到達度をルーブリックで評価します。各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とします。汎用的教育実践力科目を全体として合格するには、3 つの学習項目の全てを合格する必要があります。

学習項目		講師	時間	概要
1	研究指導演習	出江 紳一 (東北大学 名誉教授) 倉重 知也 (㈱イグニタス 代表取締役)	3.0	教員が学生に考えるヒントを与え、動機づけ、励まし、対話を行いながら、課題遂行を促す「コーチング」技術を用いた研究指導について、ワークショップ形式で学びます。
2	授業デザインとシラバス作成	串本 剛 (東北大学 准教授) 今野 文子 (東北大学 専門研究員/元講師)	3.0	教育目標・学習活動・学習成果の把握を構造化しながら、1 学期・15 回分の授業設計をいかに行うのか。実際のシラバス作成を通してワークショップ形式で学びます。
3	インストラクショナルデザイン演習	鈴木 克明 (武蔵野大学 教授) 平岡 斉士 (放送大学 准教授) 合田 美子 (熊本大学 准教授)	3.0	大学教育基礎力科目の「インストラクショナルデザイン」や「授業設計論」で学んだ基礎知識を前提に、授業や教育プログラムの設計方法についてワークショップ形式で実践的に学びます。

① 専門領域別科目（選択必修 24 時間：応募時に希望コースを選択）

※同期型オンライン・対面集合型含（詳細は日程表参照）

産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

【目的】大学と産業界が緊密に連携することで、質保証がなされた 21 世紀型の新たなリベラルアーツ教育を構想・設計し、教授できるようになることを目的とします。

【学習目標】リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを広く学んだ上で、近年注目を集める STEM 教育及び産学連携教育、並びに、大学教育の質保証に関する国際的な最新動向について学びます。その後、アクティブラーニングによるリベラルアーツ・セミナーや PBL 型授業を設計し、実際に学生を相手に授業を行うことを通して、実践的な授業マネジメント力の修得を目指します。

【授業方法】1) 受講生は、1~4 の学習項目については、Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：各 30 分~1 時間）、Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（事後学習：各 2.0~2.5 時間）。各学習項目の学習時間は 3 時間となります。2) 5・6 の各学習項目については、講師の授業を実際に学生と一緒に受講するなど指導を受け（5 時間）、授業設計（4 時間）を行った上で、模擬授業（振り返りを含む）を実施します（3 時間）。学習項目 5・6 の学習時間はそれぞれ 12 時間となります。

【履修方法】1) 学習項目 1~4 は必修です。2) 学習項目 5・6 のいずれか少なくとも 1 項目を選択して学習します（選択必修）。3) 前記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの学習項目）から 8 時間まで選択受講することができます。

【成績評価方法】学習項目 1~4 については、4 項目の小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。また、学習項目 5・6 については、それぞれの成果物（模擬授業を含む）について到達度をルーブリックで評価します。各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目 1~4 全て、学習項目 5・6 のうち少なくとも 1 項目において合格する必要があります。

学習項目		講師	時間	概要
1	リベラルアーツ教育論	吉田 文 (早稲田大学 教授)	3.0 必修	リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育（教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。 ※e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」（動画視聴）
2	STEM・文理融合教育論	山田 礼子 (同志社大学 教授)	3.0 必修	米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策と STEM 教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。 ※e-learning「STEM 高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際 STEM プログラム」（動画視聴、英語による講演・日本語字幕）
3	産学連携教育論	吉本 圭一 (九州大学 名誉教授)	3.0 必修	国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習（WIL）を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。 ※e-learning「産学連携教育論」（動画視聴）
4	教育質保証論	深堀 総子 (九州大学 教授)	3.0 必修	2000 年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果（コンピテンス）に基づく質保証の実践と課題について考えます。 ※e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」（動画視聴）
5	リベラルアーツ・セミナー実践演習	大森 不二雄 (東北大学 教授) 杉本 和弘 (東北大学 教授) 宇野 健司 (㈱大和総研 調査本部 副部長)	12.0 選択 必修	受講者が主体となって、アクティブラーニングによるセミナー型リベラルアーツ教育の授業を設計し、実際に模擬授業を行うことを通して、教育実践力を高めます。

6	PBL 設計・運営演習	松岡 洋佑 (㈱イノベスト 代表取締役/ 名古屋大学 招聘教員) 菱山 諒 (㈱イノベスト 取締役 /一橋大学 非常勤講師)	12.0 選択 必修	受講者が主体となって、企業等の実課題に取り組む PBL 型授業を設計・運営し、相互フィードバックを通して、教育実践力を高めます。
---	-------------	---	------------------	--

インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学提供）

【目的】大学の授業の設計を効果的・効率的・魅力的に改善するためのスキル修得、並びに、改善された設計を実践するための教育環境構築のためのスキルの修得を目的とします。

【学習目標】

- ・学習者が生涯にわたって活用できるスキル習得を目指した授業設計ができる
- ・学習目標と評価情報と教授方法の整合性を満たした授業設計ができる
- ・授業を効果的・効率的・魅力的にするための授業設計の改善案を提示できる
- ・授業を効果的・効率的・魅力的にするために各種テクノロジーを用いた学習環境を構築できる

【授業方法】受講生は、各学習項目において、Web 上で指示されるタスク・課題に取り組みます。他の学習者との相互コメントを通じて、自己のスキル習得のための練習と実践を行います。

1) 受講生は、1～4 の学習項目については、Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧し（非同期学習：各 30 分～1 時間）、Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（非同期学習：各 2.0～2.5 時間）。各学習項目の学習時間は 3 時間です。

2) 5・6 の各学習項目については、Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧して学習し（非同期学習：5 時間）、授業設計（非同期学習：4 時間）を行った上で、設計案の改善・模擬授業・振り返り（同期学習：3 時間）を実施します。学習項目 5・6 の学習時間はそれぞれ 12 時間です。

【履修方法】

1) 学習項目 1～4 は必修です。2) 学習項目 5・6 のいずれか少なくとも 1 項目を選択して学習します（選択必修）。3) 前記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの学習項目）から 8 時間まで選択受講することができます。

【成績評価方法】コース必修学習項目は、各学習項目に用意された 3～5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。全ての課題の合格基準を満たすことで学習項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目 1～4 全て、学習項目 5・6 のうち少なくとも 1 項目において合格する必要があります。

学習項目		講師	時間	概要
1	基盤的 ID 論	鈴木 克明 (武蔵野大学 教授)	3.0	ID の基本的な考え方について理解した上で、掲示板による議論を行うとともに、それを応用する課題（自身の教育改善アイデア）を提出します。※e-learning
2	教材設計演習	平岡 斉士 (放送大学 准教授)	3.0	自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授業設計企画書・教授方法・教材・小テスト等を設計する練習を行います。※e-learning
3	動機づけ理論活用演習	都竹 茂樹 (大阪大学 教授)	3.0	多様な事例に対して ARCS モデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。※e-learning
4	e ポートフォリオ導入演習	松葉 龍一 (東京工科大学 教授) 久保田 真一郎 (熊本大学 准教授)	3.0	受講者自身の e ポートフォリオを構成することで、e ポートフォリオの設計や運用について習得します。※e-learning
5	大人の学びへと誘う教育改善演習	鈴木 克明 (武蔵野大学 教授) 喜多 敏博 (熊本大学 教授) 平岡 斉士 (放送大学 准教授) 合田美子 (熊本大学 准教授)	12.0	学習目標、評価方法、授業方法の高度化・拡張のためのアイデアを提示し、それを用いた授業改善計画を提案する練習をします。

6	既存のツールやサービスを活用した学習環境構築演習	戸田 真志 (熊本大学 教授) 喜多 敏博 (熊本大学 教授) 平岡 齊士 (放送大学 准教授)	12.0	既存のツールやサービスを活用した学習環境を構築の例を参考にして、学習者自身の授業設計を各種ツールやサービスで実現します。
---	--------------------------	---	------	--

アントレプレナーシップ教育力育成コース（大阪公立大学提供）

【目的】 起業時や企業での新規事業開始に当たり必要な基礎知識を学ぶとともに、それらを指導・教育するための手法や技能を習得することを目的とします。

【学習目標】

- ・技術マネジメントの基本的な考え方を理解し、説明できる
- ・事例に基づく技術マネジメントの指導力を身に付け、実践できる
- ・アントレプレナーが理解しておくべき基本的知識を理解し、説明できる
- ・アントレプレナーの育成体系を理解し、それを実践できる

【授業方法】

1) 受講生は、学習項目1について、Web上の動画コンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：0.5時間）、別途指示されるレポートの作成、その他の課題に取り組みます（事後学習：各1.5時間）。学習項目2に関しても、Web上の動画コンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：2.5時間）、別途指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（事後学習：各1.5時間）。学習項目1・2の学習時間はそれぞれ2及び4時間となります。

2) 学習項目3・4については、実践形式で実施される演習に参加し、与えられた実践課題に取り組みながら、そのコーチングスキルを講師から学ぶとともに、授業中に与えられる様々な課題や模擬指導に取り組みます。学習項目3・4の学習時間はそれぞれ6及び12時間となります。

【履修方法】 1) 学習項目1～4は必修です。2) 前記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの学習項目）から8時間まで選択受講することができます。

【成績評価方法】 学習項目1・2については、それぞれのレポート及びその他課題について、あらかじめ設定している学習すべき要素を理解し、それが反映された記述となっているかをチェックリストを基に定量的に評価します。同様に、学習項目3・4については、実践演習課題の実施内容、ワークへの取組姿勢、コーチングに関するスキルの理解度をあらかじめ設定した項目ごとに定量的に評価します。合格となるためには、演習への主体的な参加（発言や行動）を通して、アントレプレナー育成の重要性を理解し、それらの教育手法を自らのものとしていることに加え、各学習項目を100点満点で採点し、60点以上で当該項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目1～4全てにおいて合格する必要があります。

学習項目	講師	時間	概要
1	技術マネジメント基礎論 鐘ヶ江 靖史 (PwC コンサルティング)	2.0	技術マネジメントとそれに関連する知識を学習します。 ※e-learning
2	アントレプレナーシップ基礎論 広瀬 正 (大阪公立大学 特任教授)	4.0	アントレプレナーに必要な基礎知識とベンチャービジネスの基本を学習します。 ※e-learning
3	技術マネジメントコンサルティング演習 鐘ヶ江 靖史 (PwC コンサルティング)	6.0	科学技術の事業化・産業化の考え方・プロセスの指導・育成法を事例に基づき学ぶワークショップに参加し、講師の事例を見ながらそのコーチングスキルを習得します。グループワークでは、実践的に学生を指導する機会が与えられます。
4	ベンチャービジネスコンサルティング演習 広瀬 正 (大阪公立大学 特任教授)	12.0	事業化テーマのブラッシュアップ法を学ぶワークショップに参加し、講師の事例を見ながらそのコーチングスキルを習得します。グループワークでは、実践的に学生を指導する機会が与えられます。

リーダーシップ開発力育成コース

【目的】「大学生のリーダーシップ教育（開発）」を企画・運営するために必要となる基礎知識、手法や技能を習得することを目的とします。

【学習目標】

- ・大学生のリーダーシップ教育に関わる大学の教育ニーズを理解し説明できる。
- ・学術的研究成果や科学的方法論に基づいたリーダーシップ教育プログラムを企画・運営できる。
- ・実施したリーダーシップ教育プログラムを内省・改善できる。

【授業方法】

1) 受講生は、学習項目 1～5 では、Web 上の動画コンテンツを視聴し（20～30 分間）、オンライン会議システム（Zoom）にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生が相互作用を行う同期型オンライン学習に参加します（各 60 分間）。また、Web 上で指示される課題に取り組みます（事前もしくは事後学習：各 30～40 分間）。各学習項目の学習時間は 2 時間となります。2) 学習項目 6～9 では、受講生が 4 つのチームに分かれ、各学習項目を分担して模擬授業を行います。模擬授業に先立ち、各リーダーシップ・スタイルについての動画コンテンツ（20 分間）と講義（40 分間）が提供されます。これらを参考にしつつ、チームごとに事前に授業準備を行った上で、実際の大学生を対象に模擬授業（振り返りを含む）を実施します（各 60 分間）。各学習項目の学習時間は 3 時間となります。また、担当してない回では、大学生と一緒に模擬授業を受講し、担当チームにフィードバックを行います。3) 学習項目 10 では、オンライン会議システム（Zoom）にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生が相互作用を行う同期型オンライン学習（60 分間）に参加します。また、Web 上で指示される課題に取り組みます（事前学習：60 分間）。

【履修方法】

1) 学習項目 1～10 は必修です。2) 前記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの学習項目）から 8 時間まで選択受講することができます。

【成績評価方法】

1) 学習項目 1～5・10：事前もしくは事後課題（小レポート等）によって評価します。具体的には、チェックリストを基に定量的に評価します。

2) 学習項目 6～9：以下についてチェックリストを基に定量的に評価します。

- ・模擬授業を担当する学習項目：模擬授業企画書（グループ課題）と小レポート（個人課題）
- ・模擬授業を担当しない学習項目：小レポート（個人課題）

各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、全ての学習項目に合格する必要があります。

学習項目		講師	時間	概要
1	イントロダクション	石川 淳 (立教大学 教授)	2.0 必修	リーダーシップ教育に必要な以下の 3 つの考え方を共有します。 1) リーダーシップは、リーダーだけではなく、全員が発揮するものである、2) リーダーシップは、権限や権力がなくても発揮できるものである、3) リーダーシップは、生まれつきの才能よりは、日々の努力によって学習可能であるものである。 また、効果的なリーダーシップ教育を行うために必要な考え方・方法論の基本について、教員と受講生との間で共通の理解を形成します。 なお、実践的内容として、学習項目 6～9 の実施に向けて参考資料等を共有します。これにより模擬授業の理解を深め、チームごとに模擬授業準備の下地を整えます。
2	リーダーシップ研究の理解	石川 淳 (立教大学 教授)	2.0 必修	最新のリーダーシップ研究に基づいたリーダーシップの定義について共有します。また、約 70 年間展開されたリーダーシップ研究の流れを概観すると共に、初期のリーダーシップ研究であるリーダーシップの行動アプローチと状況適合アプローチについての理解を進めます。講義およびディスカッションを通じて、学部生にリーダーシップの基本的な考え方を伝える力を涵養します。

3	リーダーシップ研究方法論	金 善照 (立教大学 客員准教授、 福島大学 准教授)	2.0 必修	社会科学の厳密な研究方法論を用いて構築されたリーダーシップに関する「理論」と、実務家が日々の職場での経験で身につけた「持論」の相違点について検討します。確かに「持論」は経験型学習を設計することあたって欠かせない重要な要素です。しかし将来、高等教育機関でリーダーシップ教育を担当する皆さんにもいずれの時点では「持論」を「理論」として検証しなければならない瞬間が訪れるかと思えます。本学習項目では、リーダーシップ分野の研究者が「理論」を検証していく三段階の研究プロセス（何が、どのように、なぜか）と、その結果得られた因果推論の三形式（単純因果関係、媒介された因果関係、条件付きの因果関係）について検討します。
4	リーダーシップ教育の理解	山口 和範 (立教大学 教授)	2.0 必修	立教大学経営学部では、「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)を2006年から持続的に実施しています。このプログラムの特徴は、以下の通りです。 1) 1回性の科目ではなく、複数の科目を段階別に履修する一貫性があること、2) 学外の実務家教員まで門戸を開放する包容性があること、3) 教員の役割を「SA」と呼ばれる立教の在学生と共有する主体性があること。 しかし、このような大胆な企画が最初から成功したわけではありません。ここでは、立教大学経営学部においてBLPが始まった経緯と現在に至るまでの試行錯誤、そしてその過程で得られたノウハウを共有します。
5	リーダーシップ教育方法論	石川 淳 (立教大学 教授)	2.0 必修	大学のリーダーシップ教育の理論的根拠は、人的資源開発 (human resource development) にあります。ここでは、人的資源開発の下位分野として、リーダーシップ開発の手法と背景理論を概観します。そして、その実践例として立教大学経営学部の「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)の教育事例を共有します。
6	リーダーシップ模擬教育研修 1	石川 淳 (立教大学 教授)	3.0 必修	現代のリーダーシップ研究の主なテーマである変革型リーダーシップ、オーセンティック・リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、シェアド・リーダーシップを学生に身につけるための教育プログラムを設計し、実施する演習を行います。各学習項目では、まず、上記のリーダーシップ・スタイルに関して担当教員による講義が行われます。受講生は、チームを組んで、各リーダーシップ・スタイルに関する文献に基づき、リーダーシップ教育の模擬授業を設計し、現役の学生を対象に実施します。この模擬授業に対し、担当教員と他の受講生チーム、および参加した学生によるフィードバックがなされます。
7	リーダーシップ模擬教育研修 2	石川 淳 (立教大学 教授)	3.0 必修	
8	リーダーシップ模擬教育研修 3	石川 淳 (立教大学 教授)	3.0 必修	
9	リーダーシップ模擬教育研修 4	石川 淳 (立教大学 教授)	3.0 必修	
10	まとめ	石川 淳 (立教大学 教授) 山口 和範 (立教大学 教授)	2.0 必修	

自由選択 学習項目（計 8 時間以内）※専門領域別科目で選択したコースで必修となる学習項目を除く				
1	産学連携リベラルアーツ教育力育成コース リベラルアーツ 教育論	吉田 文 (早稲田大学 教授)	3.0	リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育（教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。 ※e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」(動画視聴) 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。
2	産学連携リベラルアーツ教育力育成コース STEM・文理融合 教育論	山田 礼子 (同志社大学 教授)	3.0	米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策とSTEM 教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。 ※e-learning「STEM 高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際 STEM プログラム」(動画視聴、英語による講演・日本語字幕) 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。
3	産学連携リベラルアーツ教育力育成コース 産学連携教育論	吉本 圭一 (九州大学 名誉教授)	3.0	国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習(WIL)を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。 ※e-learning「産学連携教育論」(動画視聴) 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。
4	産学連携リベラルアーツ教育力育成コース 教育質保証論	深堀 総子 (九州大学 教授)	3.0	2000 年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果(コンピテンス)に基づく質保証の実践と課題について考えます。 ※e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」(動画視聴) 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。
5	インストラクショナルデザイン指導力育成コース 基盤的 ID 論	鈴木 克明 (武蔵野大学 教授)	3.0	ID の基本的な考え方について 学習した上で、これらを応用する課題 自身の教育改善アイデア) やその解決策の案を moodle フォーラム(掲示板)に投稿し、講師の指導のもと、掲示板での受講者との相互点検・コメントや議論を通じて解決策の問題点や要改善点を明らかにしながら改善し、最終案に対する講師からの評価コメントを通じて ID の基本を身につけていきます。※e-learning 各学習項目に用意された 3~5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】用意された 3~5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。

6	<u>インストラクショナルデザイン指導力育成コース</u> 教材設計演習	平岡 斉士 (放送大学 准教授)	3.0	自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授業設計企画書・テスト・プロット案等を設計する練習を行います。各自が事前に用意した 授業設計企画書等を Moodle フォーラム (掲示板) に投稿し、学習者間の相互点検・コメントや議論を行います。授業の設計やその改善を学習していきます。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じて教材設計の基本を身につけます。 1) 教材企画書を書くために必要な知識の習得をし、2) 教材企画書の草稿等を掲示板に投稿して議論し、3) 議論を踏まえて改訂した教材企画書とテストを提出します。 ※e-learning 【学習方法】 Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】 用意された 3~5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。
7	<u>インストラクショナルデザイン指導力育成コース</u> 動機づけ理論活用演習	都竹 茂樹 (大阪大学 教授)	3.0	多様な事例に対して ARCS モデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。事例に対する ARCS モデルの適用を、講師の指導のもと掲示板上で議論した上で、自らの授業設計に応用します。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じて授業における動機付け設計の基本を身につけます。 1) ARCS モデルの基礎について理解し、2) 事例に基づいた練習を行い、掲示板による議論を行った上で、3) 事例を解決する提案 (自身の教育改善アイデア) を提出します。 ※e-learning 【学習方法】 Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】 用意された 3~5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。
8	<u>インストラクショナルデザイン指導力育成コース</u> e ポートフォリオ導入演習	松葉 龍一 (東京工科大学 教授) 久保田 真一郎 (熊本大学 准教授)	3.0	学習者自身の e ポートフォリオを構成することで、e ポートフォリオの設計や運用について学びます。e ポートフォリオの自身の教育にどう活かすかを検討した結果を掲示板に投稿し、他学習者との相互コメントや議論を踏まえて改善していきます。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じて e ポートフォリオの設計や運用の基本を身につけます。 1) e ポートフォリオの基本構造について理解し、2) 掲示板による議論を行った上で、3) それを応用する課題 (自身の教育改善アイデア) を提出します。 ※e-learning 【学習方法】 Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】 用意された 3~5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。
9	<u>アントレプレナーシップ教育力育成コース</u> 技術マネジメント基礎論	鐘ヶ江 靖史 (PwC コンサルティング)	2.0	技術マネジメントとそれに関連する知識を学習します。 ※e-learning 【学習方法】 Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】 オンライン学習でのレポート及びその他課題について、学習すべき要素を理解しそれを反映した記述となっているかをあらかじめ公開された合格基準によって評価します。
10	<u>アントレプレナーシップ教育力育成コース</u> アントレプレナーシップ基礎論	広瀬 正 (大阪公立大学 特任教授)	4.0	アントレプレナーに必要な基礎知識とベンチャービジネスの基本を学習します。 ※e-learning 【学習方法】 Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】 オンライン学習でのレポート及びその他課題について、学習すべき要素を理解しそれを反映した記述となっているかをあらかじめ公開された合格基準によって評価します。

11	リーダーシップ開発力 育成コース リーダーシップ教育 の理解	山口 和範 (立教大学 教授)	2.0	立教大学経営学部では、「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)を2006年から持続的に実施しています。このプログラムの特徴は、以下の通りです。 1) 1回性の科目ではなく、複数の科目を段階別に履修する一貫性があること、2) 学外の実務家教員まで門戸を開放する包容性があること、3) 教員の役割を「SA」と呼ばれる立教の在学生と共有する主体性があること しかし、このような大胆な企画が最初から成功したわけではありません。ここでは、立教大学経営学部においてBLPが始まった経緯と現在に至るまでの試行錯誤、そしてその過程で得られたノウハウを共有します。 【学習方法】Web上の動画コンテンツを視聴し、オンライン会議システム(Zoom)にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生が相互作用を行う同期型オンライン学習に参加します。また、Web上で指示される課題に取り組みます。 【成績評価】課題(小レポート等)について到達度を担当教員がチェックリストで評価します。
12	リーダーシップ開発力 育成コース リーダーシップ教育 方法論	石川 淳 (立教大学 教授)	2.0	大学のリーダーシップ教育の理論的根拠は、人的資源開発(human resource development)にあります。ここでは、人的資源開発の下位分野として、リーダーシップ開発の手法と背景理論を概観します。そして、その実践例として立教大学経営学部の「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)の教育事例を共有します。 【学習方法】Web上の動画コンテンツを視聴し、オンライン会議システム(Zoom)にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生が相互作用を行う同期型オンライン学習に参加します。また、Web上で指示される課題に取り組みます。 【成績評価】課題(小レポート等)について到達度を担当教員がチェックリストで評価します。

④教育イノベーター実践演習科目(12時間:必修)

【目的】これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、教育イノベーターとして授業や教育プログラム等を変革・改善して実践・運営できるようになることを目的とします。

【学習目標】実践知と学術知の往還を意識しながら自律的に構想した新規の取組案(授業、カリキュラム、プロジェクトの案等)の発表・討論を行います。

【授業方法】受講生が自ら構想した新規の取組案について、①事前準備(8.0時間)、③成果発表会・講評(4.0時間)、を行います(計12.0時間)。

【成績評価方法】成果発表会での発表について、到達度をルーブリックで評価します。100点満点で採点し、60点以上で合格とします。

学習項目	講師	時間	概要
1 キャップストーン・プロジェクト	大森 不二雄 (東北大学 教授) 杉本 和弘 (東北大学 教授) 鈴木 克明 (武蔵野大学 教授) 戸田 真志 (熊本大学 教授) 松井 利之 (大阪公立大学 教授) 星野 聡孝 (大阪公立大学 教授) 山口 和範 (立教大学 教授)	12.0	受講生が自ら構想した新規取組案について、①事前準備、②成果発表会・講評を行います。プログラムを通して修得した知識とスキルの統合と振り返りを行うことを通して「教育イノベーター」としての総まとめを行います。

2023 年度プログラム日程

2022.12.1

科目	実施日（期間）	時間帯	学習項目	実施方法	
大学教育基礎力科目	8月6日（日）	午後	オリエンテーション※1	対面（東京）	
	8月5日（土）～10月4日（水）		1	大学教育制度論（必修）	オンライン（非同期）
			2	インストラクショナルデザイン（必修）	
			3	授業設計論（必修）	
			4	学習評価論（必修）	
			5	学生・学習支援論（選択必修）	
			6	カリキュラムマネジメント（選択必修）	
			7	大学における倫理（選択必修）	
			8	教育改善論（選択必修）	
			9	オンライン授業実践論（選択必修）	
			10	ICT等先端技術活用教育論（選択必修）	
	11	実務家教員論			
10月4日（水）17:00 締切厳守			大学教育基礎力レポート	レポート提出	
備考：学習項目1～4は必修。学習項目5～11（選択必修）より少なくとも2つ選択。					
実践用力的科教育	10月9日（月祝）	13:30-16:15	1	授業デザインとシラバス作成	オンライン（同期）
	10月15日（日）・28日（土） ※いずれか半日	13:30-16:40	2	研究指導演習	
	10月21日（土）・22日（日） ※いずれか半日	21日午前・午後 22日午前のみ	3	インストラクショナルデザイン演習	
備考：学習項目1～3は、各30分程の事前学習あり。演習は全てリアルタイム配信で実施。但し、当日参加が難しい場合、個別に相談・対応。					
専門領域別科目	産学連携リベラルアーツ教育力育成（LA）コース				
	大学教育基礎力科目終了後 ～12月14日（木）		1	リベラルアーツ教育論	オンライン（非同期）
			2	STEM・文理融合教育論	
			3	産学連携教育論	
			4	教育質保証論	
	12月9日（土）・10日（日） ※両日参加	9日 10:00-13:00 及び 10日 15:00-18:00	5	PBL 設計・運営演習	ハイフレックス※2 （対面（東京）+ オンライン（同期）、 10日午後～11日午前は自己学習）
	12月16日（土）・17日（日） ※いずれか半日	10:00-13:00 15:00-18:00	6	リベラルアーツ・セミナー実践演習	ハイフレックス※2 （対面（仙台）+ オンライン（同期））
	備考：学習項目5・6（選択必修）はいずれか1つを選択。学習項目5は、授業参観（4時間：対面@東京他：選択可）、模擬授業の設計（5時間：ハイフレックス（対面は東京））、模擬授業の実施（3時間：ハイフレックス（対面は東京））によって構成される。学習項目6は、授業参観（5時間：対面は仙台/東京もしくはオンライン：選択可）、模擬授業の設計（4時間：自己学習）、模擬授業の実施（3時間：ハイフレックス（対面は仙台））によって構成される。学習項目5・6の上記日程は、同期による模擬授業日時。				
	インストラクショナルデザイン指導力育成（ID）コース				
	大学教育基礎力科目終了後 ～11月19日（日）		1	基盤的 ID 論	オンライン（非同期）
2			教材設計演習		
3			動機づけ理論活用演習		
4			eポートフォリオ導入演習		
12月2日（土）	13:00～16:00	5	大人の学びへと誘う教育改善演習	ハイフレックス※2 （対面（東京）+ オンライン（同期））	
12月17日（日）	9:00～12:00	6	既存のツールやサービスを活用した 学習環境構築演習	ハイフレックス※2 （対面（熊本）+ オンライン（同期））	
備考：学習項目5・6はいずれか少なくとも1つを選択。いずれも事前学習（7時間：オンライン（非同期））、模擬授業（3時間：ハイフレックス）、事後学習（2時間：オンライン（非同期））によって構成される。学習項目5・6の上記日程は、模擬授業を含む同期学習。但し、当日参加が難しい場合、個別に相談・対応。					

アントレプレナーシップ教育力育成 (EP) コース					
大学教育基礎力科目終了後 ～11月6日(月)		1	技術マネジメント基礎論	オンライン (非同期)	
		2	アントレプレナーシップ基礎論		
	11月7日(火)、28日(火)	15:00～18:15	3	技術マネジメントコンサルティング演習	ハイフレックス※2 (対面(大阪)+オンライン同期)
	11月8日(水)、22日(水) 12月6日(水)、13日(水)	15:00～18:15	4	ベンチャービジネスコンサルティング演習	
備考: 学習項目3および4は演習で構成され、対面またはオンライン同期での参加を原則とする。					
リーダーシップ開発力育成 (LD) コース					
11月5日(日)	10:30～11:30	1	イントロダクション	ハイフレックス※2 (対面(東京または池袋) +オンライン(同期))	
	11:30～12:30	2	リーダーシップ研究の理解		
11月12日(日)	10:00～11:00	3	リーダーシップ研究方法論	オンライン(同期)	
	11:10～11:40	4	リーダーシップ教育の理解		
11月19日(日)	10:00～11:00	5	リーダーシップ教育方法論		
	11:10～11:50	6-9	リーダーシップ模擬教育研修1(理論編)		
11月26日(日)	10:00～11:40		リーダーシップ模擬教育研修1(実践編)		
	12月3日(日)		10:00～11:40		リーダーシップ模擬教育研修2(実践編)
12月10日(日)			10:00～11:40		リーダーシップ模擬教育研修3(実践編)
	12月17日(日)		10:00～11:00		リーダーシップ模擬教育研修4(理論編)
11:00～12:00			10		まとめ
備考: 学習項目1・2はハイフレックスにて実施。学習項目3～10はオンラインにて実施。全学習項目30分程の事前視聴動画あり。					
実教育演習ノ科ペーター	2024年 1月21日(日)・28日(日) ※いずれか半日		9:00-13:00 14:30-18:30	キャップストーン・プロジェクト 成果発表会	
	備考: 上記日程は、同期による成果発表会日時。事前学習等についての詳細は別途案内する。				

※1: オリエンテーションは対面(東京)にて実施します。全受講者の参加必須ですが、対面参加ができない場合、後日、録画を視聴してください。(リアルタイムでのオンライン配信はいたしません。)また、オリエンテーション後、コース別セッション及びプログラム修了者・受講者との交流会を行います(参加任意)。

※2: 対面を実施する場合の会場は以下のとおりです。ハイフレックスとは、授業が対面及びオンライン同期にて提供され、受講者は受講形態を選択可能です。

東京: 23区内の会場	仙台: 東北大学川内北キャンパス(宮城県仙台市青葉区川内41)
池袋: 立教大学池袋キャンパス(東京都豊島区西池袋3-34-1)	熊本: 熊本大学黒髪キャンパス(熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1)
大阪: 大阪公立大学中百舌鳥キャンパス(大阪府堺市中央区学園町1-1)、杉本キャンパス(大阪府大阪市住吉区杉本3-3-138)	

特別セッション【参加任意】プログラム受講中に、下記セッションが行われます。

セッション名	内容
大学教育基礎力科目 講師Q&Aセッション	Moodle上での大学教育基礎力科目の学習をサポートするため、大学教育基礎力科目の講師とのQ&Aセッションおよび受講者交流会(参加任意)をオンライン(Zoom)にて開催いたします。Q&Aセッションでは、大学教育基礎力科目講師に直接質問する機会が得られます。また、会の後半では受講者交流会として自コースや他コースの受講者との交流の機会がございます。
	1回目: 2023年8月下旬～9月上旬予定 2回目: 2023年8月下旬～9月上旬予定
キャリアサポート・オンラインセッション	2023年10月～11月頃予定 受講者の皆さんが今後実務家教員としてキャリアを構築していきけるよう、実務家教員に関するレクチャー①や、大学等の求人機関に自分自身をアピールするためのキャリア支援サービス(JREC-IN Portal / researchmap)に関するQ&Aセッション②を行います。(他実務家教員研修プログラム受講者と合同実施予定)